

一 單獨合同を主張するもの

吾等は今、全民、大衆の両党の合同の必要を説く前に一應全
約合同の結局、此の合同論者も辯へておる如く、資本の攻撃に
折衝する期に合同へと具體的に結果を導き得ない要を明にせ
ねばならぬ。

若くは、合同論何故に各党の幹部や大衆が辯へるに到りたか
と云へば、一つは前記資本主義の大衆の合同史論に煽動され、
主張する理想論的、合同論が主眼たる。此輩の人々は、大衆が合同
を要求して往いておるといふ一己の大衆とは非ざるの責任なき大衆だ。
今一つの、單獨合同が完成されることには依つて自己の英雄的立場と自
己の存続が薄弱となる事を見越して、大衆の両党の合同を、皆せんが調
此れおるに相違呼して全民、大衆の両党の合同を、皆せんが調
の表相的、假面的、全合同論者となつて全約合同を唱へておる。

斯くして全約合同論者、表相的に實現の可能あるものの
如く唱へらるに到り、一破的に現象に各党派の突進を知らぬ
合同プランは、今に全約合同は出来る様に早合意をした。備に
乍ら、是れは一つの夢にすぎなくなつた。

全約合同論者、大衆の声だ！ 其産業界の拡大強化のためだ！
と主張して来たが、前全約合同の協賛会を網羅する必要に迫ら
れて、是れを労働党が提唱した。だが今迄八益しく全約合同
を主張して、おれ若くは此の提唱に何と答へたか。社民は相他
に、大衆党は条件を出し、地方無産の労働農民系は居込みを不
利とある。斯くて此の提唱は、結局全約合同プランを、
此れだけ、少しも具體的に結果的に全約合同に進んでおるな
らぬ。此は大衆への申訳のため、各党が合同の懸引を弱くし
つたにすぎぬ。こんな重たい目を送つておる所に資本家、地主
の露骨な攻撃は大衆の頭上にビシクとのしかりつゝあるのだ。資
本の攻撃に折衝する期に労働大衆の斗争力を拡大強化する
必要から全約合同を主張して来たのはないか。大衆が全約合
約を、是れ程に望んでおるのなら、何故に此の全約合同を所謂
大衆の「燈台心」だ、とないのだ。

單獨合同を主張するものを、反動的分裂主義者であると、
する者があるが、是れは亦門意いであつて、自ら全約合同の大